

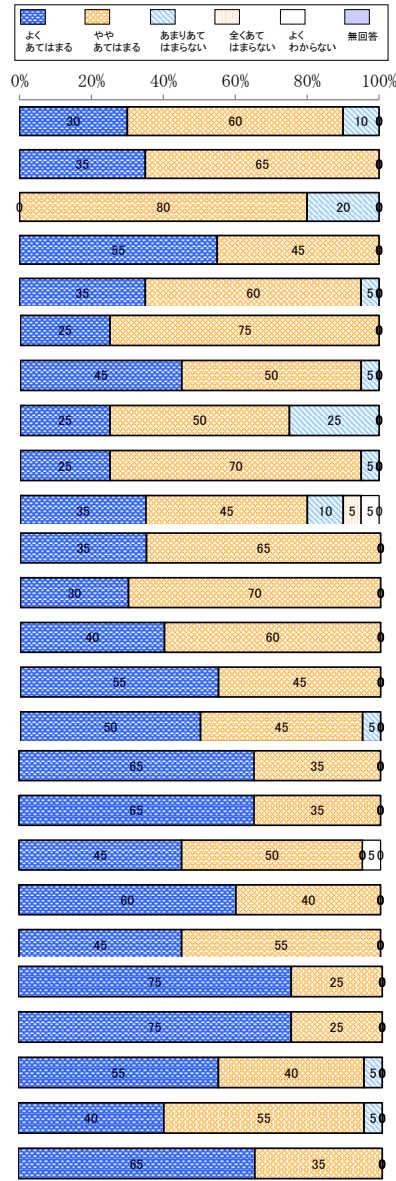
令和7年度 『学校評価アンケートの結果』 と 『自己評価』

荒川区立第一中学校

様式4

アンケートの結果			上段：生徒 下段：保護者等 グラフ：教職員						
			A	B	C	D	よく分らない	無答	
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	38	44	14	1	3	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	75	22	3	0	0	0
	3	基本的生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的生活習慣がしっかりしている。	54	44	2	0	0	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	45	43	10	0	2	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	60	36	3	0	1	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	40	49	10	1	1	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	13	58	12	0	17	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	46	42	9	1	2	0
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	19	43	17	3	18	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	30	35	28	6	2	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	15	46	20	2	17	0
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	41	45	11	2	1	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	29	48	10	1	13	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係を築けるよう取り組んでいる。	21	27	40	9	4	0
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	12	26	28	10	24	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	58	38	2	0	1	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	18	54	11	1	16	0
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	51	41	5	1	2	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	21	58	6	2	13	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	46	38	12	2	3	0
各学校の特色ある教育	21	人権教育の推進	人権に関する知識理解を深め、実践活動につながるような講演会や学習会の充実を図っている。	18	60	6	3	14	0
	22	キャリア教育の充実	全校ハローワークや勤労留学などを通して、望ましい勤労観や職業観を育てるための指導が充実している。	78	20	1	1	0	0
	23	社会貢献活動への参加	防災部やJRC活動、朝清掃・地域行事ボランティアに参加し、地域や社会のため活動に取り組んでいる。	56	37	1	4	3	0
	24	充実した学校生活	生徒は、委員会活動や部活動、学年・学級活動に積極的に参加し、自分らしさを発揮して生活を送っている。	52	44	1	1	2	0
	25	食育の推進	給食は献立が工夫されており、健康な食生活を確立する食育が行われている。	40	47	4	2	7	0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

教育方針は概ね理解されており、学校・家庭・地域が同じ方向で生徒を育てていけるよう、より分かりやすい発信に努める。

今後も生徒一人ひとりの良さを認め合い、安心して過ごせる学校づくりを大切にしていける。

基本的生活習慣は一定程度身に付いているが、生徒の意識には課題が残る。家庭・地域と連携し、指導を継続していく。

教職員の評価は高い一方、生徒・保護者の実感には差が見られる。声掛けや支援の在り方の工夫が求められる。

安全指導や防災教育について、三者共に高い評価を得られている。さらに、非常時に生徒自ら考え行動する力の育成を図る。

教職員と生徒・保護者の実感に差がある。ICT等を活用しながら、学習者の視点をもったさらなる授業改善が必要である。

教職員の取組意識は高い一方、生徒・保護者の理解は十分とは言えない。個別支援の説明と連携を強化する必要がある。

三者共に評価が伸び悩んでいる。家庭学習は「なぜやるのか」「何が身に付くのか」が生徒に伝わる体制を整える必要がある。

ICTの活用は一定程度進んでいるが、生徒・保護者の評価は十分とは言えない。目的や効果を明確にしていける必要がある。

評価が低い傾向が続いており、授業と連動した図書館の活用、読書活動の充実、図書館を学びに活かす取組の強化が課題である。

生徒・教職員の評価は高い一方、保護者の理解の広がりには差が見られる。取組の内容の可視化を進める。

取組は評価されているが、生徒の内面化に課題が残る。葛藤を抱えながらも考える過程を重視した指導を進めていく。

体制は整っているが、生徒・保護者の安心感十分とは言えない。周知と雰囲気づくりが課題である。

三者の評価は概ね高く、本校の強みといえる。行事に頼らない日常的な人間関係づくりの継続が必要である。

概ね良好な評価であり、生徒会や委員会活動の成果が伺える。さらなる生徒の主体性の発揮や自治力の広がりへの支援をしていく。

学校からの情報発信について一定の評価を得た。今後も工夫を重ね、分かりやすい情報発信に努めていく。

教職員の評価が高く、丁寧に対応している一方、保護者の実感とは差がある。対応後のフォローを大切にしていける。

学校公開や行事への参加については概ね良好であり、今後も参加しやすい環境づくりを進めていく。

三者の評価が分かれている。今後はさらに生徒の自治的活動を促し、地域へのボランティア活動参加の活性化を支援していく。

意見を学校運営に生かす取組には課題がある。意見を受け止めた後の「見える改善」を意識し、分かりやすく示していく。

教職員の評価は高い一方、取組の浸透には差が見られる。全体に行き渡る継続的な推進が必要である。

取組は進められているが、生徒・保護者にとって学びの意味が十分に共有されていない。系統的な取組の明確化が課題である。

教職員評価に比べ、生徒・保護者の参加実感が低い傾向である。社会貢献活動への参加の機会充実を図っていく。

評価は概ね高いものの、学校生活に充実感がもてない生徒への支援が求められる。個に応じた丁寧な支援が課題である。

取組は評価されているが、保護者には分かりにくさも見られる。試食会等を活用し、食育推進の理解を深めていく。